



## 令和7年行事予定と副会長退任のご挨拶

長崎県技術士会 副会長 川村昭宣

令和7年は役員改選の年である上、長崎県技術士会創立50周年であるため、例年よりも多くの行事を予定しており、その準備状況等を説明致します共に、私自身は今年6月の総会時に副会長退任致しますので、そのご挨拶もさせていただきます。

### 1. 令和7年度総会について

6月7日（土）13:00から諫早市のホテルセンリュウにて、令和7年度の総会とCPD研修会、交流会を開催予定しております。

今回の総会と交流会は、長崎県技術士会創立50周年の記念式典も兼ねて行い、下記議案の審議を行いますので、多くの方のご出席をお願い致します。

- ・1号議案：令和6年度事業報告
- ・2号議案：令和6年度収支報告及び監査報告
- ・3号議案：令和7年度事業計画（案）
- ・4号議案：令和7年度収支予算（案）
- ・5号議案：役員改選（案）
- ・6号議案：長崎県技術士会創立50周年記念事業（案）

正式の開催案内及び、これらの議案の内容については、総会前の5月中旬までには、事前送付致しますので、内容について十分ご検討いただき、総会にて活発なご意見をお願い致します。

特に役員は、今までの役員12人中3人が退任し、欠員となっていた方の補充もあって、新たに6人の方が新役員候補となっていて、大幅に体制

## 長崎県技術士会

令和7年 4月10日発行・責任者 山口 和登

を変える事を計画中です。新鮮な体制となり、今までと異なった新しい活動や新規提案も出てくることが期待されます。

なお総会に出席出来ない方は、委任状の提出をよろしくお願ひいたします。

### 2. 創立50周年行事について

長崎県技術士会は昭和50年（1975年）に約10人規模で発足しましたが、毎年順調に発展し、今年3月の段階で200人を超す会員数となっております。

今年2025年は昭和100年、終戦後80年、長崎県技術士会創立50周年であり、私自身にとつても大学卒業60年で、色々記念の年であります。

創立50周年の記念行事として、創立50周年記念誌を作成しようとしており、役員会で検討中です。

昨年は公益社団法人日本技術士会の長崎県支部が創立10周年となり、今年創立10周年記念誌も完成し、日本技術士会の会員の方には既に配布済みです。

この長崎県支部創立10周年記念誌や、平成13年発行の日本技術士会創立50周年記念誌などを参考にしながら、長崎県技術士会の50年の歴史をまとめて立派な創立50周年記念誌を作成し、今後の長崎県技術士会の発展に役立てたいと考えております。

### 3. 副会長退任のご挨拶

平成25年（2013年）に副会長に就任した私

は、満12年勤めさせていただきましたが、今年6月7日の総会をもって副会長退任させていただきます。

今まで皆様から多大なご支援やご協力、ご指導をいただきました事に深く感謝し、御礼申し上げます。

在任中取り組みましたのは、会員の増強とCPDの充実・長崎県技術士会創立時の経緯調査・会員相互の親睦強化等等でした。

私が副会長就任時の平成25年の会員数は149人でしたが、今年の3月時点で200人を超える体制となり、会員数が大幅に増加となりました。長崎県内には数百人の技術士が在住されて居られると思われ、これからも入会される方がますます増える様、魅力ある活動を続けていきたいと考えております。また懸案であった公益社団法人日本技術士会の長崎県支部も発足することが出来ました。

長崎県技術士会の発足時の経緯や創立年度等は、創立時の資料がほとんど残っておらず詳細不明の上、創立時の会員の方も故人となられたり連絡先が不明になっていたりして、調査は難航致しました。しかし第2代副会長の柏原公二郎氏や、元長崎地区代表幹事の城石高弥氏、第3代副会長の永濱伸也氏等多くの先輩方の情報提供により、ほぼ経緯などをまとめる事が出来ました。

長崎県技術士会が発足出来たのは、長崎在住の技術士である、元日本技術士会副会長で初代長崎県技術士会会长の黒瀬正行氏、元九州支部支部長兼長崎県技術士会顧問の野々下金氏、元九州支部幹事兼長崎県技術士会初代副会長の藤永勝之氏、長崎県技術士会第2代会長の田中武熊氏が熱心に、奔走してくださったおかげであり、深く感謝申し上げます。

技術士同士の親睦を深めるための一環として、ゴルフ同好会APREN会を発足させましたが、毎年4回、毎回十数人の方が参加して、楽しくラウンドし、色々な事を話しあっており、大いに効果があったと思います。

ただ、これらの活動を致しましたが、ここ数年はコロナ感染拡大の影響もあり、対面での打ち合わせや研修会等には色々制限が付き、まだまだ十分な成果が上がったとは言えない状況であり、深く反省しある所を申し上げます。

なお、副会長は退任致しますが、今後も長崎県技術士会の発展のお役に立てる様、努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

今後も本会が益々発展していく事を祈念して、退任のご挨拶と致します。  
長い間のご指導・ご支援・ご協力、本当にありがとうございました。

## 第10回長崎大学（社会環境デザイン工学コース）学生への講演会報告

長崎県技術士会 理事  
園田直志（建設・CPD認定）

例年どおり長崎県技術士会の講演会を上記コースの3回生（37名）の学生に10回目の講演会を実施しました。講演プログラムは従来と同じ構成になっていますが、今年も女性技術士からの情報発信が出来ました。

### 講演内容：

日時：令和6年10月21日（16:10～17:40）

指導教員：奥松俊博教授、吉川沙耶花准教授（社会環境デザインコース）

場所：長崎大学工学部工学研究科社会開発環境

## デザイン工学コース 第四講義室

講演題目、講師：

(1) 「技術士」制度について

講師1：長崎県技術士会会長

山口和登 (応用理学)

(2) 「コンサルで働く技術者として経験し

たこと」

講師2：株オリエントアイエヌジー

佐藤 (吉武) くらら (環境)

(3) 「技術者のキャリアパスと資格 (2024年度版)

講師3：長崎県技術士会理事

園田直志 (建設)

(4) 質疑応答とアンケート 「Google フォーム事前配布」

(1) 「技術士」制度について

例年、当会の山口和登会長が実施している講演内容であり技術士試験結果データなどのデータを更新した内容です (参考APREN85号)。



写真1：講師1 (山口氏)

(2) 「コンサルで働く技術者として経験し

たこと」



写真2：講師2 (佐藤氏)

下記の佐藤くらら氏の投稿記事 (2024年版) を参照してください。



写真3：講演状況

(3) 「技術者のキャリアパスと資格 (2024年度版)」

例年の筆者の講演内容を再編集し、2024年度版として講演した。(参考APREN85号)



写真4：講師 (園田)

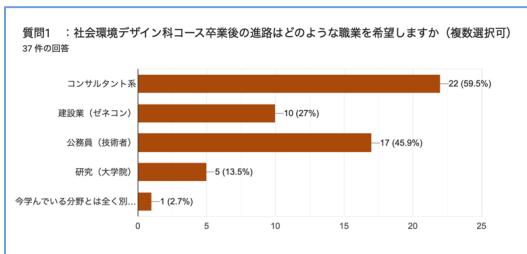
(4) 学生アンケートの集計分析及び昨年度との比較 (一部)

出席者37名の全員のアンケート集計を下記に示す。昨年度までのアンケート結果を比較してみると、質問1, 2, 3に大きな違いが分析され

た。

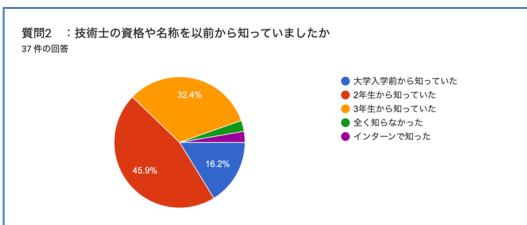
### 問1：志望進路

昨年2023年度から5～6割程度の公務員志望者数が激減して、今年も民間企業志望者が増加した。最近の日本社会経済界の変化に伴う賃金上昇機運に影響されていることでしょう。

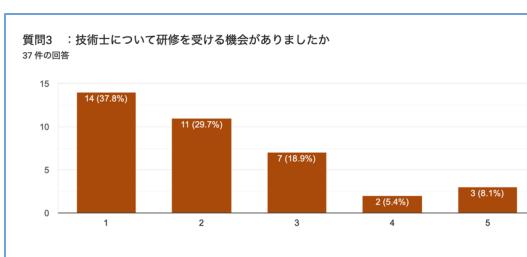


問2：技術士の資格や名称を以前から知っていましたか

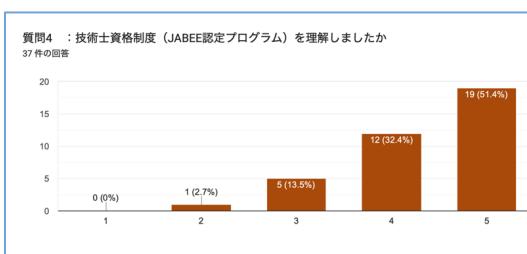
技術士資格の認知度を問う項目ですが、毎年の傾向で大学に入ってから知った学生が多い。



問3：技術士について研修を受ける機会がありましたか（1→5 あった）

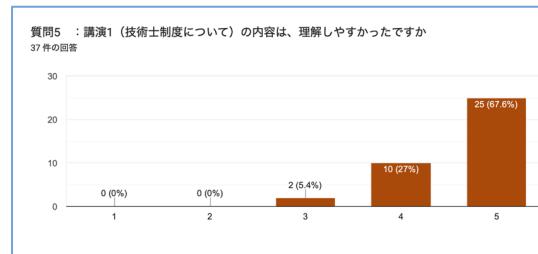


問4：技術士資格制度（JABEE認定プログラム）を理解しましたか（1→5 理解できた）

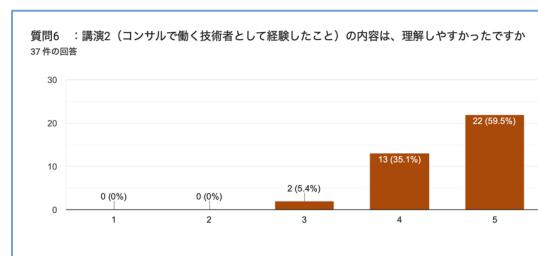


問5：講演1（技術士制度について）の内容は、

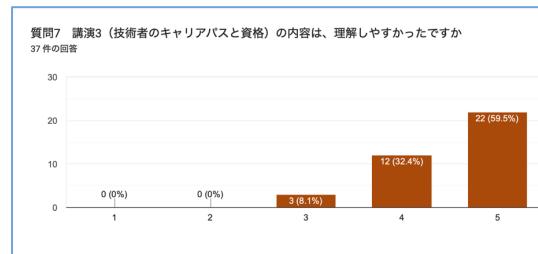
理解しやすかったですか（1→5 理解できた）



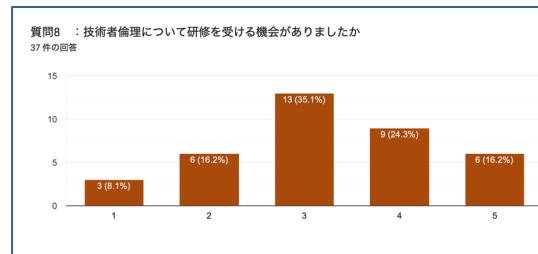
問6：講演2「コンサルで働く技術者として経験したこと」の内容は、理解しやすかったですか（1→5 理解できた）



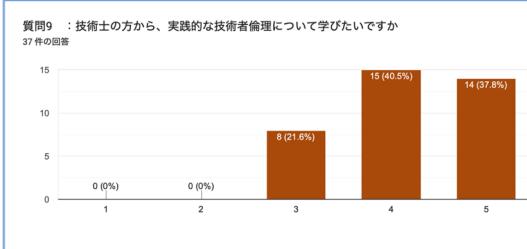
問7：講演3（技術者のキャリアパス）の内容は、理解しやすかったですか（1→5 理解できた）



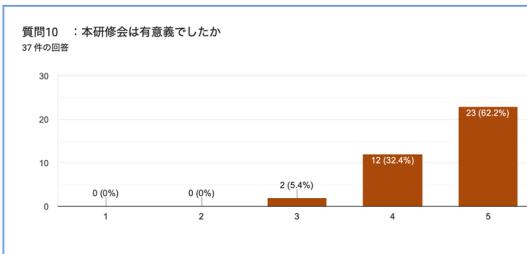
問8：技術者倫理について研修を受ける機会がありましたか（1→5 あった）



問9：技術士の方から、実践的な技術者倫理について学びたいですか（1→5 学びたい）



問10：本研修中は有意義でしたか（1→5 有意義である）



質問1～質問10に関して昨年と同様な回答でしたが、公務員志望者が減ってコンサルタント系やゼネコン志望者が増えたのは、社会の要請（技術者不足）や民間企業の初任給アップの情勢が影響している様です。

問11：技術士資格のメリット等についてどう思いましたか

31人の回答がありましたが、「資格取得で給料が上がる」と回答した学生は11人も居ました。

主なものを列記します。

- ① 資格手当。
- ② 給与が上がること、職場での地位が上がるなどとても大事なことなのでしっかりと対策して早めに取りたいと思いました。
- ③ 給与、役職、家庭全てにおいて良いので、るべきだと思った。
- ④ メリットについて理解しており、今回の講義でさらに資格取得について意欲的になった。

問12：研修中に強く印象に残ったことを述べて下さい

32人の回答

- ① 技術職にかかる資格として最高峰というだけあり、合格者数が少ないと思った。そんな中、一次試験をパスできる JABEE の制度はありがたいと思った。
- ② 自分の人生で何を重視したいのか考える必要があると思った。
- ③ 技術士資格を取ることは、将来どのような就職先になるとしても大事なことになるということ。
- ④ 土木は女性の従業員が少ないとと思ったが、想像以上に多かったのが印象的だった
- ⑤ 自らのコースが JABEE に認定されていることは非常に恵まれており、積極的に資格を取得するべきであるということが印象に残った。
- ⑥ 技術士を取る過程についてよく理解できた。
- ⑦ 女性のほうが技術士試験の合格率が高いこと

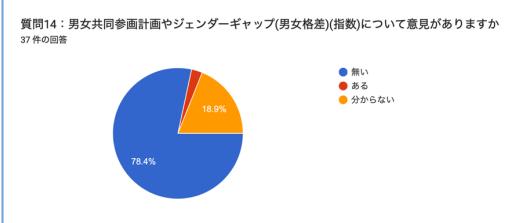
問13：技術者としての将来について、日頃から何か考え、意見・質問がありますか。その他自由な意見を述べて下さい。

14人の回答

- ① 繼続的な学習を行い早めの資格取得を心掛けたい。
- ② 一人の技術者として日々勉強し学び続けていくべきだと感じています。
- ③ 技術者の資格の有無で、取り組める仕事が違ってくることはありますか。
- ④ 5年ごとに、難易度も上がった試験を受けるという認識でありますか？
- ⑤ 私はゼネコンで現場志望なので、資格を取つて現場に貢献していきたいと思っている。

問14：男女共同参画計画やジェンダーギャップ

(男女格差指数)について意見がありますか



昨日と変わらない傾向です。

問15：質問14で「ある」方は、意見を聞かせて下さい。

回答なし

### (5) まとめ

個人的には10回目の節目でこの講演を終了しようと思っていたところ、事前に奥松教授、吉川准教授から次年度の「技術士講演会」の体制をコース内の「プロジェクト演習III」に組み入れたい旨の連絡がありました。[社会環境デザイン工学コースのHP↑](#)にも掲載されていますのでご覧ください(図-1)。



図-1：社会環境デザイン工学コースのHPから

最近、各県支部でも技術士制度の説明会が積極的に実施されていると聞いています。JABEE認定プログラムコースの卒業者や第一次試験合格者の修習技術者がスムーズに第二次試験に挑み、多くの技術士が誕生することを希望します。

文科省2024年度「第12期技術士分科会」報告書にも「技術士制度におけるIPDシステムの整

備・充実」が謳われています。筆者も、もう少し頑張ろうかなと思い直し後継者へ伝えて行きたいと思っています。

### 講演内容及び感じたこと

(株)オリエントアイエヌジー  
佐藤(吉武) くらら(環境部門)

私は、「コンサルで働く技術者として経験したこと」というタイトルで、これまでにってきた仕事の内容や技術士試験の体験談、ライフィベントとキャリア等について講演を行った。

#### <講演の内容>

これまでに経験した仕事の内容については、土木、まちづくり、観光等幅広い業務に携わってきたことを話した。

技術士試験については、主に筆記試験について、過去問を引用しながら、どのようなことが問われ、どのような対策が必要となるのか説明した。数年前に試験方針が変更されたことにより、必要な対策をしっかりと行えば、経験のそれほど多くない技術者でも一定の適性があれば合格しやすい試験になったことを強調して伝えた(図1)。

#### 筆記試験について

- 午前・午後の5時間半で9枚の原稿用紙を手書きで埋めなければならない。  
(時間との戦い！)

##### 私が行った試験対策

- 試験の評価基準や小論文で書くべきポイントを知る(Sukiyaki塾セミナーテキスト)
- 知らない専門用語について調べ、メモアプリにまとめる
- ネットや本で対象分野の最新の動向を把握し、メモアプリにまとめる  
(環境省のHP、環境白書、ネットニュース等)
- 過去問をたくさん解く
- 書いた小論文を誰かに見てもらい、添削を受ける  
(社内の先輩、Sukiyaki塾)

- どれくらいの時間をかけたか

・2022年4月～7月

・週10～15時間くらい

#### 図1 発表スライドの抜粋(筆記試験について)

また、ライフィベントとキャリアについては、業界における今年の新卒採用の3割程度が女性、と割合が高まっており、コンサルの技術者として働くにあたって性別を気にする必要はないことを

話した。しかし、出産や子育て等を行う場合は、会社の制度や周囲のサポートが重要となってくる（図2）。主に女子学生を想定した内容となったが、子供を持たない人や男性でも、病気や介護等、ワークライフバランスを意識することは誰にとっても意義がある。

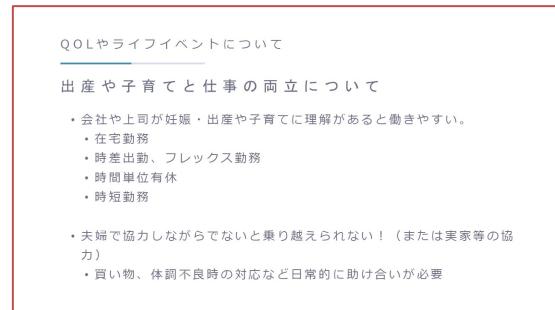


図2 発表スライドの抜粋  
(出産や子育てと仕事の両立について)

<講演を終えて>

昨年度に引き続いで講師を務めたため、前回の経験を活かして内容をブラッシュアップすることができた。しかし相変わらず、学生が求めている内容は何なのか、それに対する話の引き出しが自分にあるのか、探り探りの講演準備及び本番であった。

私の話が、多くの学生さん達にとって将来技術士を目指すきっかけとなってくれれば良いなと願っている。聴講してくれた学生さん達、奥松教授、吉川准教授、講師の機会をくださった長崎県技術士会の皆様、今回は本当にどうもありがとうございました。

(了)

## 令和6年度第4回CPD研修会報告

扇精光コンサルタンツ（株） 山本 奉彦  
(農業部門・建設部門)

令和7年1月29日（水）に開催された長崎県支部第4回CPD研修会は、初の試みとして、研

修会場とWeb併用によるハイブリッド方式で開催されました。その概要を報告いたします。

- ・開催場所：諫早商工会館
- ・出席者：会場29名、Web25名

## 演題1 「地域防災に関する研究への取り組みと異分野連携」

【講師】長崎大学大学院総合生産科学域

杉本 知史 准教授

地盤防災に関わる斜面防災と城郭石垣保全に関する研究、および、研究を通じた異分野との連携について講演を頂いた。

### 【講演内容】

近年、ゲリラ豪雨等により斜面災害が頻発している。地質・地形などの素因と降雨・地下水等の誘因が場所毎に異なるため、災害の発生予測は困難である。斜面の地下水位と斜面表層の変状を8年間にわたり計測し、斜面安定性の推定手法と数値シミュレーションを組み合わせた力学的安定性の評価手法について説明。



地震により熊本城で多くの石垣が被災したが、崩落を免れた石垣にも孕みだしや沈下等が広範囲に存在する。傾斜計を用いたモニタリングと、築石構造物の個別要素法動的シミュレーションによる、力学的安定性の評価手法を紹介。

遠隔モニタリングにおける電気電子工学分野と

の連携、高リスク斜面の情報工学分野との連携。現在、長崎大学ほか6大学のグループで取り組んでいる「第3期スマートインフラマネジメントシステムの構築」について、安価で高精度な計測システムの開発により、幅広い分野での将来予測やシミュレーションへの応用に展開できる。汎用性が高く安価で安定的な運用が検証できれば、防災分野や農業分野での応用に繋がる。

### 【感想】

斜面災害の予測は被害防止に直結する。石垣の力学的安定性についても客観的な評価が待たれる。今後の研究の進展と連携や応用に期待したい。

## 演題2 「半導体微細加工論」

**【講師】**ソニーセミコンダクタマニファクチャリング（株）

岡 始 氏（応用理学）

半導体の簡単な物理や、関連技術、国内外の動向についても、分かり易く説明頂いた。

### 【講演内容】

半導体とは、電気を通す「導体」と電気を通さない「絶縁体」両方の性質を兼ね備えたもの。生活家電から自動車まで、今では生活になくてはならない存在。スマートフォン1台に搭載されるトランジスタは約160億個。

九州で2021年以降、1億円以上の半導体関連産業投資額が6兆円を超える模様、2030年までの経済効果は23兆円以上と試算。台湾では半導体生産に不可欠な、水、電力、土地、作業者、高度人材が五欠状態。TMCは、熊本への進出で豊富な資源が得られるという思惑。一方、先端半導体は、日本にとってAI、自動運転、遠隔医療等に

欠かせない国家戦略物資。過去世界一であった半導体強国の中興を目指しており、材料、装置の上流サプライチェーンを抑えている日本は、国際競争力の面で有利であり、日本復興千載一遇のチャンスとも云える。



写真6：岡先生

### 【感想】

私たちの生活に不可欠となった半導体、海外企業の地方への進出は、周辺地域のみならず、国の経済や国際情勢にまで大きな影響を及ぼすことを再認識した。

## 演題3 「新たな水族館教育への挑戦」

**【講師】**海と博物館研究所

高田 浩二 所長

水族館は、娯楽やレクレーション施設と思われがちであるが、法律で博物館に定義される。博物館法改正に携わった経験を踏まえ、新たな役割とあるべき姿を示された。

### 【講演内容】

水族館は、理科中心の教育が得意であり、受け側もそれを期待している。しかし、水族館の持つ教育力は、建築設計や展示デザインを学ぶ、遠隔授業などによる情報教育、博物館や美術館などとの人材交流、生態学に関する基礎授業など広範囲である。

水族館教育に地域の多様な教育資源を活用すべきであり、水族館が地域の学びの御用聞きとなって、学びのコミュニティになると人々が集う。教育面で地域の信頼を受け地域の宝にならなければならぬ。観光需要だけでは生き残れない時代が来る。ヒトは学ぶ動物、義務教育、生涯教育、水族館教育は、これらすべての学びに手が届く。



写真7：高田先生

地域にどんな課題があり、何を望んでいるのかを知ることが課題。水族館は教育でしか生き残れない。

### 【感想】

博物館法の存在と水族館が博物館に定義されることを知り、水族館では学名や詳しい説明が掲示されているなど、博物館との共通点を感じることが出来た。



写真8：研修会状況

(了)

### ※ 機関紙発行担当からのお知らせ

#### 1. 新入会員紹介（2月、3月役員会承認）

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	藤崎将仁	建設	長崎県土木部砂防課
B会員	三丸政章	建設	永川建設株式会社

#### 2. 佐世保市都市計画審議会委員に西村博史会員（建設部門 都市・地方計画）が長崎県技術士会の推薦により就任しました。任期は令和7年1月から令和9年1月までの2年間です。

#### 3. 公益社団法人土木学会の2024 インフラメンテナンス マイスター賞を川村昭宣副会長（建設・総監）が令和7年2月に受賞されました。おめでとうございます。

#### 4. 長崎県技術士会の令和7年度の総会・支部年次大会・研修会・合格祝賀会（懇親会）は6月7日（土）に開催されます。会場は諫早市のホテルセンリュウです。詳細は後日お知らせいたします。

#### 5. 令和7年度版の会員名簿を作成準備中です。所属、連絡先変更や追加部門等がありましたら情報配信局までお知らせください。

編集代表＆連絡先  
N.ソノダ技術士事務所 代表 園田直志

[sonoda\\_naoshi@icloud.com](mailto:sonoda_naoshi@icloud.com)